

# 洗浄血小板輸血が有用であった非溶血性輸血副作用の一症例

山下省一 内山恵美子 石神加納子 福留智子 釘宮弘子 中村香穂子

(県立宮崎病院臨床検査科)

## 「はじめに」

同種血輸血に伴う非溶血性輸血副作用は比較的よくみられる副作用で、使用製剤では血小板製剤または赤血球製剤の使用によるものが多く報告されている。

非溶血性輸血副作用には、発熱、蕁麻疹、アナフィラキシー・ショック等があり、発熱反応の多くは抗白血球抗体、蕁麻疹、搔痒感、あるいは重篤なアナフィラキシー・ショックは血漿蛋白成分の関与が考えられている。

今回当院で、血小板製剤輸血後に重篤なショック症状を起こした患者が、血漿成分を除去した「洗浄血小板」輸血により輸血副作用が回避できた症例を経験したので報告する。

## 「症例」

患者は75歳、男性。2002年にDLBCLを発症、寛解。その後再発あるも本院で経過観察中。本年4月風邪症状にて近医受診、肺炎疑いにて本院に入院となる。

入院時汎血球減少が見られ4月6日に骨髓検査、急性骨髄性白血病(M5)と診断。4月14日より化学療法を施行した。

骨髓機能低下のため赤血球製剤及び血小板製剤を継続し

ていた。

6月16日血小板輸血開始後5分で意識消失、呼吸停止、血圧測定不能となり、気管内挿管施行。頭部CT行うも出血等は見られず、その後CT撮影中より自発呼吸及び意識回復し、ショックより約3時間で抜管、アナフィラキシー・ショックが疑われた。その後、7月18日及び19日に血小板輸血直後にショック状態となり、血小板輸血を中止した。赤十字血液センターに副作用報告し血漿蛋白抗体等について検索したが、原因は不明であった。

臨床検査科より洗浄血小板の使用を臨床側に提案し、7月20日輸血分より赤十字血液センターの技術協力により洗浄血小板輸血を開始、その後はショック症状なく経過した。

## 「考察」

血小板輸血によるアナフィラキシー・ショックを呈する患者に対し、洗浄血小板輸血が有用であった症例を報告した。

電話 0985(38)5054